

市川自然博物館

6・7月号

（通巻68号）

だより

花Ⅱ 『林の花』 の特集



△イチヤクソウの花

市内に限られた場所で、限られた時期にしか見られません。長い雌しべと、ねじ曲がった多数の雄しべをもつ、独特の形です。

花Ⅱ 『林の花』

の特集

今回は、市内の林で見られる植物を紹介します。いわゆる「山野草」と呼ばれる植物で、その多くは、林の減少、林内環境の変化、そして度重なる掘り取りの影響などで、生育場所がきわめて限定されています。また、町なかの植物とちがって花期も短めです。そのため、咲いている株に出会える機会は多くはありません。



ヒトリシズカ

名前は「一人静」で、4枚の葉に抱かれてひっそり咲く花の様子から、つけられました。花は正確には小さな花の集まりで、ひとつひとつの花には花びらがなく、そのかわり3本の雄しべが白く伸びて目立っています。根茎から多数の茎を伸ばすため、群生して花を咲かせていることが多くあります。

(花：4月 センリョウ科)

タチツボスミレ

市内でもっとも普通に見られる野生スミレです。スミレの花びらは5枚あって、上から順に1対の上弁、1対の側弁、1枚の唇弁となっています。昆虫は唇弁に着地してから奥にある蜜を求めて花にもぐり込み、この時に花粉の受渡しに、ひと役買います。

(花：4月 スミレ科)





ホタルブクロ

ラン科以外の山野草では、もっとも掘り取りの影響を強く受けた植物のひとつです。花は5枚の花びらがくっついてできた釣鐘形で、草丈にくらべて大柄です。市内では、野生株を見ることがほとんどできなくなりました。

(花：6月 キキョウ科)



ウラシマソウ

中国名「天南星」にちなんでテンナンショウと総称される植物の一種です。花のつくりは変わっていて、仏炎苞（ぶつえんほう）と呼ばれるカバーに囲まれた中に、粒状の小さな花が集まってできた大きな花が隠れています。ミズバショウや園芸植物のアンズリウムと同じグループで、花のつくりも共通しています。

(花：5月 サトイモ科)



オオバノトンボソウ

ラン科植物の花には変わった形のものが多いですが、本種も見ようによってはトンボの姿に見える、そんな変わった形をしています。ひとつの花は、長さ1cm前後と小さく、色も緑色なので林の中ではあまり目立ちません。梅雨どきのジメジメした林の中で、ひっそりと花を咲かせています。

(花：7月 ラン科)



ツリガネニンジン

秋の山に登ると、「〇〇シャジン」と名がつく青いキキョウ科の植物がよく見られます。ですが市川のような平地で咲く青いキキョウ科は稀で、市内では本種と、帰化植物のキキョウソウくらいしかありません。

(花：8月 キキョウ科)

キツネノカミソリ

ヒガンバナ科の植物で、秋に真っ赤な花を咲かせるヒガンバナ同様、花と葉に季節のずれがあります。つまり、春先に葉だけを茂らせたあと、いったん地上部は枯れてしまい、その後、真夏に茎だけを伸ばしてオレンジ色の花を咲かせます。ヒガンバナとは、花と葉の順序がちょうど反対になっています。

(花：8月 ヒガンバナ科)



ノハラアザミ

市内でよく見られるアザミは、本種とタイアザミの2種類です。比較的多く見られるのはタイアザミの方で、花の「がく」に見える部分の刺が外に開いているのが特徴です。林の縁などで、よく咲いています。本種は、市北部の林で時々見られ、タイアザミと違って刺の部分は、あまり外に開いていません。

(花：10月 キク科)



街かど自然探訪

おじゃまします!

真間・手児名の池

むかし真間のあたりは、大小の池や沼が点在する湿地でした。大正時代からは水路の整備と耕地化が進められ、その後宅地化が進みました。

手児名霊堂の池は、湿地だった頃の真間の姿を想像させるには小さい池ですが、いろいろな生き物が生活しています。5月中頃にはハスの花が咲き、アカミミガメが葉の上で甲羅干しをしていたりします。時にはカワセミが近くの木にとまって池の小魚をねらっています。



図は「市川まちかど博物館
p.88「真間の手児奈」」
／いちかわ・まち研究会編
より引用

RDB レッドデータブック

掲載種紹介



ホウロクシギ

分類：鳥類シギ科
ラング：絶滅危惧
II類



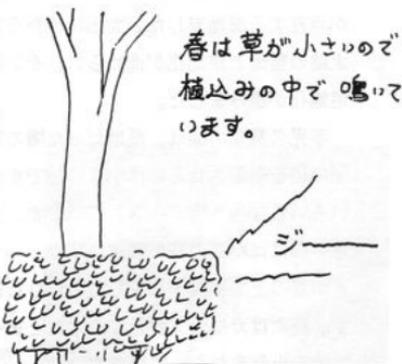
繁殖地と越冬地を往復する途中に日本に立ち寄る渡り鳥です。「旅鳥」と呼ばれ、その仲間としては市内に飛来する最大級の大きさですが、近年では飛来することもほとんどなくなってしまいました。博物館の鳥類目録（1986年～1991年）では「江戸川放水路と行徳鳥獣保護区で稀に見られる」との表示になっていますが、現在はむずかしいでしょう。規模の大きな干潟が必要と言われ、全国的な飛来数も減少しています。

昆虫たちが活動をはじめました

「4月13日、子の神中央公園付近で、クビキリギスが『ジー』と大きな音を出していました。その日はかなり暖かく、モンシロチョウ（スジグロシロチョウかも）やヤマトシジミらしき（とてもキレイでした）チョウが飛んでいました」

—クビキリギスの声は、時々、博物館にも問い合わせの電話がかかってくる。秋ならあたりまえの鳴く虫も、春先だと驚かれる方が多いようです。

（情報提供：水垣麻理子さん）



春は草が小さいので
植込みの中で鳴いて
います。



むかしの市川



このコーナーでは、博物館が1986年に行ったアンケート調査の結果から、むかしの市内の様子を紹介しています。

（原則として回答の原文のまま）

・家の前は、大きな池（付近の谷津田の水源地）が有り隣の家まで100m以上も有り春日神社までの農道には1軒の家もなく野菜畑ばかりで、西側は、谷津田と雑木林でうっそうとしていました。傾斜地の山林と田南の間には清水がわ

き出る小川が流れていて「清水がに」やメダカ、フナ、タナゴ等がたくさんおりました（曾谷）。

- ・大洲のあたりは農家と田んぼや畑がありました。梨畑もあり市川駅から江戸川堤が見えて対岸の小岩の川土手が見えました（大洲）。
- ・海が近くまでできて、のり干し場があり、漁をする人でいっぱいだった。家の近くは、ぬま地で、ハスの花がよく咲いた（香取）。

わたしの
観察ノート
No.50

◆大町公園より

・今年のはじめてツマキチョウを見ました(4/4)。去年より2日早い初見日でした。ただ、見られたのはメスで、翅の先が黄色いオスはまだでした。

清野元之(自然博物館)

・ヤマザクラが、ちょうど見頃になりました(4/10)。

・フクロウが今年も巣箱に入っていました(4/10)。

金子謙一(自然博物館)

◆柏井雑木林より

・キランソウ(別名「地獄の釜のふた」)が地面に円く葉を広げて、紫色の花を咲かせていました(4/13)。

・無事、冬を越したホソミオツネントノボが林内を飛んでいました(4/13)。

小川 晃(自然博物館)

◆市川北高校付近より

・珍しいアカガシラサギが飛来していました(4/27)。夏羽でした。

石井信義さん(菅野在住)

◆坂川旧河口より

・今年もノウルシが土手を黄色に染めていました(4/13)。ほかにカントウタンポポの花や、ノカラマツの芽だしも見られました。

宮橋美弥子(自然博物館)

◆里見公園より

・アカハラの「キョロン、キョロン、ツリー」というさえずりが聞かれました(4/15)。いつも、このころになると、よくさえずります。

根本貴久さん(菅野在住)

◆堀之内貝塚公園より

・シラカシの樹冠の中でよく眠っているフクロウを見ました(4/8)。

根本貴久さん

◆小塚山市民の森より

・近くを飛ぶ、ワシタカ1羽を見ました(4/16)。天気が悪く姿での同定はできませんでしたが、たいへんよく鳴いてくれました。ツミです! 園内にはなぜかカラスが20羽ほどもいて、さわいでいました。

根本貴久さん

◆手児奈霊堂より

・手児奈の池でカワセミのつがいを見つけました(5/7)。

羽賀由喜江さん(市川在住)

◆江戸川放水路より

・春の渡りのメダイチドリの群れが来ていました(4/23)。

金子謙一

◎2月の低温で遅れ気味だった春の進みは、5月には例年並みになりました。



行 事 案 内



§ 申込の必要な行事です §

自然観察会

毎月テーマを変えて、市内各所に出かけます。内容によりコースの区別があります。

- 合同コース…親子コースと一般コースの合同です。親子で採集を楽しみながら、大人の方はじっくりと観察します。定員 先着30名
- 親子コース…親子向けの内容で、昆虫採集を楽しみながら自然に親しみます。定員各日 先着10組

テーマ	コース	日時	場所	受付開始
夏の江戸川放水路	合同コース	7月16日(日)午前	江戸川放水路	6月24日～
昆虫の観察 (両日とも内容は同じです)	親子コース	8月5日(土)午前 8月6日(日)午前	大町周辺	7月15日～

ホタルを学ぼう

自然観察園に生息するヘイケボタルを、観賞するだけでなく生態や生息する環境などについても詳しく学習します。

- * 日 時…8月4日(金)、5日(土)、6日(日) 午後6時～8時 各日とも内容は同じです。
- * 場 所…自然博物館、自然観察園
- * 定 員…各日先着20名。希望日を明記してお申し込みください。
- * 受付開始…7月20日(休)到着分より順に受け付けます。

ホタルの見られる期間は、自然観察園の開園時間を延長しますので、自由にホタルをご覧になれます。
詳しくは市川市動植物園まで。047-338-1960

〒申し込み方法

往復はがきに参加者全員の住所、氏名、年齢、電話番号、行事名と参加したいコース名、参加希望日を明記の上、自然博物館までお申し込みください。

§ 申込の必要はありません § 直接会場におこしください。

名前をしらべる会

あなたがつくった植物・昆虫の標本に専門の先生が名前をつけます。

- * 日にち…8月20日(日)
- * 受付時間…午前10時～11時30分 午後1時～3時30分
- * 会 場…市民会館(葛飾八幡宮参道脇)

柏井散策会

雑木林を散策します。

はじめて参加される方は、事前に博物館にお問い合わせください(交通手段等ご案内します)。

- ・ 日時 毎月第3土曜日 午後1時30分～3時
- ・ 雨天は中止です。

市立市川自然博物館だより
第12巻 第2号 (通館第68号)
発行日/平成12年6月1日
編集・発行/市立市川自然博物館
〒272-0801 千葉県市川市大町284番地
☎047(339)0477
<http://www.city.ichikawa.chiba.jp/nature/>